２０２０年8月１２日（水）

老球の細道５５６号

会津地区バスケットボールU-1２、U-15交流会雑感

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

本来であれば今頃は、２０２０東京五輪の感動の余韻に浸りながらお盆を満喫しているコロナのに、コロナのおかげで歴史的な日常を強いられている。島根県では松江の高校サッカー部にクラスターが発生した。県外遠征試合が原因らしい。この件でバスケットボール関係の地区外をまたぐ試合などに再び規制が加わることが予想される。残念である。

そんな中、会津地区においては、8月に入ってからU-12、U-15の交流大会が会津若松、喜多方、会津美里などで開催された。野次馬根性ですべてを観戦してきたが、大会関係者のコロナ対策への労苦に頭が下がった。このような労苦が今後も続くと思うとやり切れないが、バスケットボールのために前に進んでほしい。明けない夜はない、禿げない爺はいない。

私には試合で絶対許せないプレイが３つある。「3 人の悪魔」と呼ぶ。今回の交流戦でも随所に見られた。一つは、「ノーマークのゴール下シュートを外す」こと。二つは、「シュートを外してリバウンドに行かない」こと。「オー・マイ・ゴッド！」と言っているかどうかはわからないが、苦笑いして天井を見ている暇はない。三つは、「デイフェンスに戻らない」ことである。特にチームの中心選手に多く見られる。ミスは誰にでもあるが、簡単なことをきちんと行うこと、ミスをカバーする努力を惜しまないことは第二の天性にしたい。

「3人の悪魔」は日常のチーム練習の中で習慣化される。ノーマークシュートは必ず入れる、オフェンスはリバウンドまで、デイフェンスになったらボールよりも先にゴールへ戻る。このような基本を徹底することをコーチは見逃していけない。

久しぶりの試合のせいか選手は皆元気であった。育成年代は上手い下手よりもまず元気にプレイすることであるとつくづく思った。元気はアントニオ猪木のためだけではなく、バスケットボール関係者のためにある。元気にバスケットボールをするには、元気な日常生活を送らなければならない。メシ上手い、昼は元気だ、夜眠い。

高校女子バスケットボールの名門、東京明星学園には「５つの“気”を咲かせる木でいつか勝利の花を咲かそう」というスローガンがある。育成年代は基本と気持ちが重要な土台となる。試合を見ていて私なりにアレンジした「５つの気と一つの気違い」を思いついた。

①元気・・・・すべての活動の源泉。声、表情、振舞いでコントロールできる。

②勇気・・・・新しいこと、難しいこと、誰もやっていないことに果敢にチャレンジ。

③強気・・・・勝負はやってみないとわからない。積極性から学ぶことが豊富に生まれる。

④本気・・・・手抜きをしないで全力で。スポーツは遊びが原点。遊びは本気が面白い。

⑤根気・・・・何事も地道にコツコツとやるしか成功への近道はない。

◆気違い・・・・狂気。好きで好きでたまらない。事を成した人たちは狂人で、強靭である。

暑さは厳しいがバスケットボールに熱中症に。暑かったら、さらに熱くなろう。